

28 畜産・酪農の生産力強化

【221（258）百万円】

対策のポイント

畜産・酪農の生産力強化を図るため、肉用牛及び乳用牛の繁殖性を向上させる技術の開発を推進します。

<背景／課題>

- ・ 大家畜経営の高齢化・離農等による生産基盤の縮小が懸念される中、
①和牛繁殖経営においては、繁殖成績の低下等により、和子牛の生産が減少し、
②酪農経営においても、交雑種の生産が増加する一方で、乳用種後継雌牛が減少しています。
・ このため、雌牛の繁殖性を向上させる技術を開発し、畜産・酪農の生産力を強化する必要があります。

政策目標

雌牛の分娩間隔を20日間以上短縮する技術を開発（平成31年度）

<主な内容>

和牛・生乳の生産拡大を支える研究開発（委託プロジェクト研究）

221（258）百万円

（1）繁殖機能の早期回復技術及び精液の高品質化技術の開発

分娩後の卵巣・子宮機能の回復の遅れの早期判定や精液の高品質化を通じた受胎率の向上のための技術開発を推進します。

（2）超早期妊娠診断技術等の開発

受胎時に発現する遺伝子情報を活用し、現行の妊娠診断時期（人工授精後28日前後）の半分程度の時期に診断できる超早期妊娠診断技術や長期不受胎牛判定技術の開発を推進します。

生産現場強化のための研究開発（受胎率向上に向けた研究開発）

委託費

委託先：民間団体等

お問い合わせ先：

（1）の事業

技術会議事務局研究統括官（生産技術）

（03-3502-2549）

（2）の事業

技術会議事務局研究開発官（基礎・基盤、環境）

（03-3502-0536）

和牛・生乳の生産拡大を支える研究開発

- 近年、雌牛の分娩後における繁殖機能の回復遅延、人工授精における受胎率の低下、発情兆候の微弱化（これに伴う再授精期の見落とし）等により分娩間隔が長期化しており、和子牛や乳用後継牛の生産頭数減少の一因になっていることから、分娩間隔を短縮するための技術を開発。

繁殖機能の早期回復技術及び精液の高品質化技術の開発



肉用牛

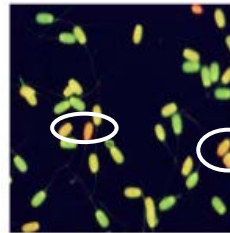


乳用牛

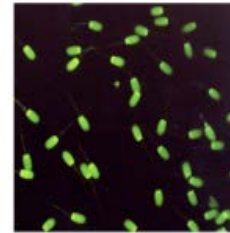
分娩後の卵巣・子宮機能の回復の遅れを早期に判定する技術を開発し、迅速な治療を実施



授精適期の早期化



低受精能精子



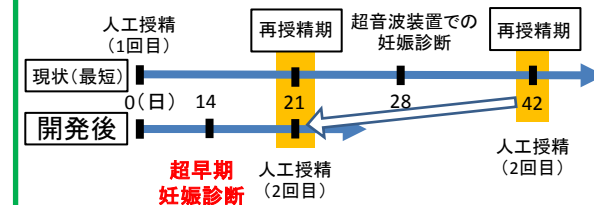
正常精子

高い受精能力を有する精液を判別する技術の精度を改良し、性判別精液等の品質を向上



受胎率の向上

超早期妊娠診断技術等の開発



超早期妊娠診断技術を開発し、人工授精実施に際し、不受胎後の最初の再授精期を確実に予測して人工授精を実施



非妊娠牛の再授精の早期化

牛の分娩間隔を平均で20日以上短縮
年間300億円規模の低コスト化を実現